



2026 年 8 月 7 日

各 位

上 場 会 社 名 矢作建設工業株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 竹下 英司
(コード番号 1870 東証プライム・名証プレミア)
問 合 せ 先 責 任 者 コーポレート本部
財務部長 水崎 康智
TEL 052-935-2348

2027 年 3 月期第 2 四半期（中間期）及び通期連結業績予想 並びに配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績動向等を踏まえ、2026 年 5 月 12 日に公表した 2027 年 3 月期第 2 四半期（中間期）及び通期連結業績予想並びに配当予想を修正することについて下記のとおり決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

（１）2027 年 3 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想数値の修正（2026 年 4 月 1 日～2026 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する中間純利益	1 株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	65,800	1,100	1,030	2,300	53.26
今回修正予想(B)	68,600	2,300	2,330	4,000	92.63
増減額(B-A)	2,800	1,200	1,300	1,700	
増減率(%)	4.3	109.1	126.2	73.9	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2026年3月期第2四半期)	89,665	7,989	7,982	5,737	133.34

（２）2027 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	150,000	9,000	8,880	8,200	189.90
今回修正予想(B)	150,000	9,500	9,380	9,300	215.37
増減額(B-A)	0	500	500	1,100	
増減率(%)	0.0	5.6	5.6	13.4	
(ご参考)前期通期実績 (2026年3月期)	169,399	13,742	13,698	8,468	196.72

2. 業績予想修正の理由

2027 年 3 月期第 2 四半期（中間期）の連結業績予想につきましては、一部の大型工事の施工が当初想定より前倒しで進捗する見込みとなったことから、売上高は前回発表予想を 28 億円上回る見込みです。

利益面につきましては、売上高の増加に加え、通期業績予想に織り込んでいた工事採算の改善が、第 2 四半期（中間期）までに一部顕在化する見込みとなったことから、営業利益及び経常利益は、前回発表予想をそれぞれ 12 億円、13 億円上回る見込みです。また、親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、特別利益として、政策保有株式の売却に伴う投資有価証券売却益が前回発表予想を上回る見込みであることに加え、収益不動産等の売却に伴う固定資産売却益の計上を見込んでいることから、前回発表予想を 17 億円上回る見込みです。

2027 年 3 月期通期の連結業績予想につきましては、中間期における売上高の増加が主に工事進捗の前倒しによるものであり、通期全体の工事進捗には前回発表予想から大きな変動を見込んでいないことから、売上高は前回発表予想を据え置いております。

利益面につきましては、通期業績予想には当初より一定程度の工事採算の改善を織り込んでおりますが、中間期までの業績進捗及び手持ち工事の採算を精査した結果、通期ベースの工事採算が当初想定を上回る見込みとなったことに加え、不動産事業における一部取引についても当初想定を上回る利益が見込まれることから、営業利益及び経常利益は、前回発表予想をそれぞれ 5 億円上回る見込みです。

また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、営業利益及び経常利益の増加に加え、第 2 四半期（中間期）までに見込む上記の特別利益の増加分を通期業績予想にも反映したことから、前回発表予想を 11 億円上回る見込みです。

3. 配当予想の修正について

2027 年 3 月期配当予想の修正（2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）

	1 株当たり配当金		
	第 2 四半期末	期末	合計
前回発表予想	50円00銭	50円00銭	100円00銭
今回修正予想	55円00銭	55円00銭	110円00銭
当期実績			
(ご参考) 前期実績 (2026年3月期)	45円00銭	55円00銭	100円00銭

4. 配当予想修正の理由

当社は、経営基盤の強化と企業価値の向上に向けて、財務健全性の維持に留意しつつ、資本効率の向上を意識した資本政策を推進しております。また、企業収益の配分につきましては、継続的かつ安定的な株主還元を実施することを基本方針としており、「自己資本配当率（DOE）5 %以上、累進配当」を配当目標として掲げております。

今般、工事採算の改善により、営業利益及び経常利益が前回発表予想を上回る見込みとなりました。また、第 2 四半期（中間期）までに、政策保有株式の売却に伴う投資有価証券売却益が前回発表予想を上回る見込みとなったことに加え、収益不動産等の売却に伴う固定資産売却益を特別利益として計上する見込みとなりました。これらを通期業績予想に反映したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益が前回発表予想を上回る見込みとなりました。

当社は、政策保有株式の縮減及び収益不動産を含む保有資産の見直しを通じて創出する経営資源を、中長期的な成長投資に活用するとともに、株主還元の充実にも適切に配分することにより、資本効率の向上及び企業価値のさらなる向上に努めてまいります。

この方針及び今般の連結業績予想の修正を踏まえ、2027 年 3 月期の 1 株当たり年間配当予想を、前回発表予想から 10 円増配し、110 円に修正することといたしました。これにより、中間配当予想及び期末配当予想を、いずれも前回発表予想の 1 株当たり 50 円から 55 円にそれぞれ修正いたします。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によりこれらの予想値とは異なる可能性があります。

以 上